

第2回よっちゃんばれ放談会 要旨

日 時	平成27年8月20日（木）午後6時00分～午後8時00分
会 場	中央保育所 2階 多目的ホール
参 加 者	愛育連合会 主任児童委員 地域子育て支援センター
市出席者	市長、福祉部長、福祉総室長、子ども家庭支援室長、児童保育課長、児童育成課長、健康衛生課長、市民対話課長
次 第	1 開会 2 市長あいさつ 3 意見交換 4 まとめ 5 閉会
意見交換	
子ども家庭支援室長	それでは、意見交換会に入りたいと思います。 最初に参加者Aさんからご意見をいただいてよろしいでしょうか。
参加者A	地域で実施している子育て支援活動の状況につきまして、甲府市愛育連合会の活動として「子育て・お助け隊」がありますが、この活動は平成17年に取り組みを始めまして、10年を経過いたしました。各地域単位で年間248回実施されており、延べ2,515人の参加があります。どのような活動をしているか、活動に参加している親子のいきいきとした様子、班員が地域の実情や特徴に沿って計画していることなどを市長にも見ていただいて、私どもへ提言をいただくとか、ご理解をいただければと思います。
市長	愛育会の皆様には、日頃から子育て支援活動だけでなく、健康管理や高齢者支援にサポートいただいておりますことに感謝申し上げます。私も地元であります石田地区の愛育会におじゃまし、ご指導いただいたりして活動については承知しているところではありますが、各地区の特徴を持った活動については分からないこともありますから、機会を設け伺わせていただき、様子を拝見させていただきたいと思います。
子ども家庭支援室長	次に、参加者Bさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。

参加者B	<p>活動している中で、パートやアルバイトなど就労している母親が増え、家庭での子育てが多様化しており、保育園に早いうちから行く子どもが増えていると感じています。地域での子育て支援は、地域でのふれあいを深め、子どもの成長を確かめ喜びに繋がっており、親同士、子ども同士での出会いの場であるが、1歳くらいで就園してしまっ地域での関わりが短くなってきていると感じております。地域での子育て支援に対してどのようなことを望み、お考えになっているかお聞かせいただきたいと思ひます。</p>
市長	<p>地域においては、愛育会の子育て支援による親子のふれ合い活動をはじめ、地区老人クラブなど、高齢者が語る昔話、わら細工等の工芸や昔遊びの伝承、あるいは子どもと高齢者の交流を図る事業を実施していただき感謝申し上げます。</p> <p>本市といたしましても、こうした活動を通じて高齢者の知識や経験を子どもたちに伝えていくことや、交流の輪が広がっていくことがとても重要であると考えており、地域の保育所などで行われている高齢者と園児の交流を図る保育所地域活動や世代間交流をサポートしているところでございます。</p> <p>大変悩ましい問題ではありますけれども、女性の社会進出や各家庭における経済情勢により、育児休暇を早期に切り上げ、子どもを1歳くらいから保育園に入園させなければならない状況は避けられないことではあります。ごく短い育児休暇期間に地域の皆様の手による地域での交流ができる場があることは、とても良いことであると考えております。</p> <p>今後におきましても、地域の子どもは地域で育てるという視点から、地域でのふれあいを深め、様々な取り組みを継続していただければありがたいと考えております。</p>
子ども家庭支援室長	<p>次に、参加者Cさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
参加者C	<p>子育て支援に関する情報をどのように発信を行っていくかということですが、活動のPRとして多くの市民の目に触れるということでは広報の活用が有効ではないかと思ひます。広報の1ページ分を「子育て支援」のページとして毎号活用できないでしょうか。その中で、地域や各種団体の等の取り組みやPRを載せていただけると良いと思ひますがいかがでしょうか。</p>
市長	<p>広報「こうふ」は月刊誌でございまして、本市の貴重な広報宣伝媒体の</p>

	<p>一つではありますが、多岐に亘ってイベント情報や国や県の情報も掲載していかなければならないため、掲載が漏れてしまったことにより甲府市民が知らなかったというようなことがあってはならないため、毎回担当課で議論しながら作らせていただいております。いろいろな方々から、もう少し私たちの分野を多く掲載して欲しいとの要望もあることも事実でございますが、枚数が増えれば増えるほど、逆に読んでいただけないということもありますから、毎回しっかりと検討しながら作らせていただいております。ご希望に添えない場合もありますけれども、ご意見はしっかりと受け止めさせていただきたいと思っております。なお、昨年度は、子ども・子育て支援新制度が平成27年4月からスタートしますことから、新制度に関する特集記事を掲載いたしました。</p> <p>また、子育て支援に関する情報提供につきましては、広報のほか、お手元にお配りしてございます「子育てガイドブック」を、保健センターにおいて母子手帳の交付時に一緒にお渡ししたり、本庁舎3階の児童育成課や児童保育課の窓口をはじめ、幼児教育センター、公民館、窓口センターにて配布するなどして行っております。こちらの方も活用していただくことと、これに関してご注文があれば、率直なご意見をいただければありがたいと思っております。</p>
<p>子ども家庭支援室長</p>	<p>次に、参加者Dさんご意見をいただいております。</p>
<p>参加者D</p>	<p>子育て支援を応援する市としての取り組み、例えば優良企業の表彰を応援フェスタで行っていますが、そのような母親が安心して子どもを産み、健やかに育てることができる地域、社会、環境が必要だと思っております。子育てに優しいまちづくり、社会づくりとして何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>母親が安心して子どもを産み育てることができる子育てに優しいまちづくり・社会づくりは、最も重要な目標であると考えておまして、このほど策定いたしました「甲府市子ども・子育て支援計画」におきましても、様々な施策を計画に位置づけ推進してまいります。</p> <p>6月議会でご承認をいただきましたが、医療費助成制度の充実につきましては、平成28年1月1日から中学3年生まで助成の対象を拡大することといたしましたし、放課後児童クラブにつきましても、年次的に拡充していくことといたしました。</p> <p>また、来年の4月1日からは、(仮称)「子育て支援部」あるいは「子ども未来部」として子育て支援に特化した部を創っていきたいと思っております。</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>ます。そして、ワンストップで福祉のみならず教育に関することについても（仮称）「子育て支援部」で全て相談を受けさせていただき対応できるようなことを行っていきたいと思っております。</p>
<p>参加者E</p>	<p>次に、参加者Eさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>甲府市の中心地に子育て支援センターがあると、さらに子育て支援に街として推進が図られ、子育てにやさしいまちになると考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>地域子育て支援センターは、乳幼児・未就学児を子育てしている人たちを地域全体で支援していくことを目的に、保育所等を活用して育児相談や子育てサークル支援などの事業を実施しております。</p> <p>現在、11カ所の保育所、1カ所の幼稚園、4カ所の認定こども園、2カ所の幼児教育センター、中道つどいの広場の計19カ所で子育て支援センター事業を実施しております。本市におきましては、市域が広く、また、市内全域に利用者がございますことから、なるべく地域に近いところにとの思いで設置させていただいております。利便性良く各地域において、気軽に歩いても行けるくらいの身近なところでサービスをご利用いただくため、全市的に事業を展開しております。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に、参加者Fさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者F</p>	<p>今年の4月から「子育て支援法」が制定されていよいよ実施されたが、本当の子育てと言うのは、子育てをしている人の感情・気持ちがどのような方向に向いているのかということ甲府市全体の中でどのように捉えているのか。または、子育てをしている人たちがどのようなニーズを持っているのか。そのニーズに対して甲府市はどのように応えようとしているのかというのは、アンケート等をとれば分かると思います。それをきちっとやるのが、子育て支援法に書かれている中身をさらに具体化できる最も良い方法でないかと思います。</p> <p>また、「身近に相談できる相手もいない」「子育てに協力してくれる相手もいない」など、育児への負担や不安を感じている人もいるため、相談ができる場所を各地域に一つくらい整備して欲しいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>私も市長になる前の県議会議員時代に、「子ども・子育て支援法」の施行</p>

	<p>に対し、どのように甲府市として子育て支援を行っていくのかと尋ねたことがあります。甲府市からは、アンケートはかなり執っており、また、「子ども子育て会議」を何度か開催し市民の声としてよりどころにしたいとの回答をいただきました。その際、「子ども・子育て支援法」が施行されても、「子ども子育て会議」は継続して行って欲しいと話しましたが、市民の声・子育て支援の現場の声をお聴きするため継続して行っていくとの回答をいただいたことを思い出します。現在は、私も市長との立場になりましたから、「子ども子育て会議」につきましては、継続させていただき生の声を聞かせていただきたいと思いますと思っています。</p> <p>そして、基本的に第一義的な責任を有するのは保護者でありますから、その方々のニーズや悩みをどのように吸い上げていくのかということでもありますけれども、ご意見としては、もしかしたらマッチングがうまくいかないとのことをおっしゃっていただいているかもしれませんが、その場合に行政がどこまで関与できるかも皆さんと相談しながら、有効性が上がっていくような相談体制を作っていきたいと思っています。</p>
<p>子ども家庭支援室長</p>	<p>次に、参加者Gさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者G</p>	<p>少子高齢化や人口減少が進展し、家庭力・地域力の低下等社会の大きな変化の中で、いじめ・児童虐待・不登校・引きこもり・自殺等が増加し、大きな社会問題となっています。また、一方、人間は科学発展と近代化により、自然をコントロールできると思っていたが、東日本大震災により気候変動や大災害の恐怖に気付きました。こういった諸問題を解決するには、家庭（自助）、地域（共助）、学校等（公助）が連携して、次代を担う甲府の子どもたちを心豊で思いやりがあり、自然が大好きで「生き抜く力を備えたくましい人」に育てることが急務であると思っています。</p> <p>そういった中で、子どもたちを支援する地域団体・公共団体は沢山あり活動していますが、諸問題を総合的に調整し取り纏める団体がない。もし、地域にある地域保健計画推進協議会が担うなら、形式的な組織でなく、見直し、充実してもらいたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>現在、各地域において、子どもたちを支援する地域団体等として、民生委員児童委員や主任児童委員、愛育会、青少年育成推進協議会、子どもクラブなどがありますが、各団体ともそれぞれの設立目的に沿って、地域での活動を推進あるいは展開していただいております。</p> <p>ご意見をいただきました、各団体間の総合調整を図り横断的な取り組みができるような機能や仕組みについてでございますが、各団体におきまし</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>では、それぞれの設立の目的や活動の専門性もございますから、各団体の役割を担っていただいた上で、今後、自治会や自治会連合会を含め地域の幅広い議論を行っていただく中で検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>参加者H</p>	<p>次に、参加者Hさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p> <p>就学児童・生徒に対しては、地区内の小中学校との間での定期・不定期な連絡会をきっかけとして家庭訪問や見守り活動を民生委員・児童委員や関連する機関と情報を共有し展開しています。これら支援を必要とする児童・生徒に共通するのは、ひとり親家庭であることが多く、また乳幼児あるいは就学前の段階での育児環境に原因が内在している傾向があります。問題として、顕在化した事案を改善・解決するのに要する労力を考えると、乳幼児などの早い段階で何らかのサポートや手助けが具体的な形で展開できればと思っています。</p> <p>民生委員・児童委員、主任児童委員が新生児の家庭への訪問の機会を得るにはどのようなきっかけや方法がありますか。</p>
<p>市長</p>	<p>本市では、乳幼児が生後4カ月を迎えるまでの時期の母親は、慣れない育児に不安を持ちながら、外出もしにくい状況であることから、この時期の育児を支援し、適切なサービスを提供する必要があることから、保健師・助産師・看護師などの専門職が年間1,300世帯前後の家庭を訪問する「乳児家庭全戸訪問事業」を実施しております。</p> <p>主任児童委員さんとの乳児家庭全戸訪問の同伴訪問にあたっては、訪問家庭への同意や日程調整の課題など、それぞれの組織内で検討した上で、両者の協議も必要であると思われます。もちろんその外にも、愛育会等の子育て支援や幼児教育センター、子育て支援センターなどでも地域の乳児と接することができますので、ご参加いただくのもよいかと思えます。</p> <p>また、愛育会活動の中でも、赤ちゃんが生まれた家庭にガーゼハンカチや靴下、おしり拭き、前掛けなどを持って訪問するという活動をしている地区もあると伺っておりますので連絡調整などもしていただければありがたいと思っております。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に、参加者Iさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者I</p>	<p>南ブロック主任児童委員の見守り活動について報告したいと思います。 南ブロックでは、月に1回朝1時間から1時間半ほど保育園慰問を行った</p>

<p>市長</p>	<p>り、小瀬スポーツ公園にて月2回の紙芝居を5年ほど前から活動し、年齢が様々なので少し苦戦しながらも子どもたちの見守り活動として実施しています。</p> <p>また、本年3月末から小瀬でのお花見に合わせて夜の見守り活動を行っております。</p> <p>大国地区の活動としては、夏のキックボール、運動会、夜回り、子育て支援など様々な行事に参加させていただいており、子ども達の見守り活動をさせていただいております。</p> <p>今日ご報告いただきましたが、以前から皆様がかほる保育園を慰問し、ペットボトルなどを利用した工作や小瀬スポーツ公園での紙芝居など、子どもやお母さん方はとても楽しみにしていると伺っており、皆さんの活動をありがたく思っております。</p> <p>子どもの人間性や社会性を育むには、地域での体験活動を通じた学習が重要であることから、本市で策定しました「甲府市子ども・子育て支援計画」におきましても、地域における青少年・児童の健全育成活動の充実を具体的な事業の一つとして位置づけ実践してまいります。</p> <p>今後におきましても、青少年や児童の健やかな成長のため、様々な活動にご協力をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>子ども家庭支援室長</p>	<p>次に、参加者Jさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者J</p>	<p>私の住む湯田地区にある湯田小学校は、かつてはマンモス校で子どもが大変多く、子どもクラブ活動も盛んであったそうです。</p> <p>現在は、学年1クラスずつで児童数も減っていますが、各団体が地区をあげて子どもを守り育てていこうという姿勢で変わらず活動を続けています。</p> <p>小学校でも愛育会、子どもクラブ指導者連絡協議会、食生活改善推進委員会等の諸団体と一緒に活動する特別活動を学年ごとに設定して積極的に地域との交流活動を推進してくださっています。</p> <p>子どもの数は少ないものの、子どもクラブ活動などが変わらず盛んであったり、一度は外へ出て家庭を持って再び生まれ育った湯田地区へ帰ってくるというケースが比較的多かったりするの、このような地域の子育て見守りの力が高いからなのではないかと考えています。</p> <p>地区のみならず、甲府市全体が昔からの「地域の教育力」を発揮できる可能性を持っているというのが、大都市ではない甲府市ならではの利点であると思います。今後は地域の教育力の維持・向上の推進をますます後押</p>

市長	<p>しいただくとともに、他県や海外からの移住家族も今後さらに増えていくと思われますので、その子どもたちにも積極的にそのような環境を提供していくことが、甲府市の未来の発展に繋がっていくように思います。</p> <p>また、今後見直し計画があります遊亀公園、甲府市立動物園につきましても、子どもとお年寄りなど世代間の交流が気軽に、そして自然に行われるような場に整備されますことを願っております。</p> <p>児童数が減少している、あるいは学校がなくなってしまったにもかかわらず、運動会をしたり様々な行事が行えるのは、地区青少年育成会、老人クラブ、愛育連合会、子どもクラブ指導者連絡協議会、食生活改善推進協議会の皆様が、それぞれの出来る事を最大限に活かし子育て支援をさせていただいたり、安全・安心なまちづくりを行っていただいていますから、活動しやすい環境を行政としてしっかりやっていきたいと思えます。</p> <p>そして、4年後に開園 100 周年を迎える遊亀公園・附属動物園でありますけれども、検討委員会でも現在の場所でリニューアルしていくことで話が進んでいるようでありますから、街中のお年寄りからお子さんまで気軽に楽しめる動物園を目指しこうと、これは私の思いですけれども、検討委員会も第3回位になりますけれども、整備計画の策定につきましては、学識経験者、関係団体の代表、自治会代表者等の皆さんを委員として検討をいただいているところであります。</p>
子ども家庭支援室長	<p>次に、参加者Kさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
参加者K	<p>主任児童委員は、ブロックごとに研修を行っており、今年は未就学児を対象にした研修を行うため、まちなか健やかサロンの訪問を行いました。</p> <p>その中でまちなか健やかサロンは、岡島百貨店にあり、百貨店の耐震化工事のため閉鎖されるとの話を聞きました。しかし、サロンでのベビーマッサージは盛況である上、無料、しかも保健師や助産師さんがおり、親が子育て相談をしたり、同じ世代の子を持つ親同士の交流を図ることができる貴重な場所となっておりますので、是非、まちなか健やかサロンの継続をお願いいたします。</p>
市長	<p>今日は、第2回目のよっちゃばれ放談会ですが、第1回目はまちなか健やかサロンで開催しました。参加された方の中には、県外の出身で、ご主人の転勤で甲府に転入された方もご参加いただき、まちなか健やかサロンがあって、非常に助かっているといったご意見をいただきました。また、先ほどのお話にもありましたが、ベビーマッサージが非常に人気があると</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>ということで、その風景も拝見させていただき、まちなか健やかサロンを継続して欲しいといったご意見もお聞きしました。</p> <p>現在、本年 10 月 1 日の供用開始に向け、相生の仮庁舎があった場所に保健センターを併設する福祉センターの建設を進めており、建設後は同地において、まちなか健やかサロンで行っていた事業を継続していきたいと考えております。</p> <p>市の福祉センターですので、駐車場はもちろん無料ですし、まちなか健やかサロンで行っていた事業を継続して、子育て支援を行っていきますので、ご安心いただき、皆さんにも周知していただきたいと思っております。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>ここで休憩をとりたいと思っております。</p>
<p>参加者 L</p>	<p>それでは、意見交換会を再開させていただきます。参加者 L さんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>子どもを取り巻く、社会環境の中で虐待などの悲しい事件が起こることが増えてきています。子どもはもちろんの事、社会や大人も悩みや苦悩をかかえたり、また、今までの生活背景の影響が大きいものと感じています。</p> <p>そんな社会環境の中で、私そして本園が子育て支援として取り組んでいることは、身近な子育ての問題に向き合うことです。例えば地域の交流の場として、子育て支援センターを開放し関係性を築いていくことで、子育てに関するご家庭の悩みや苦悩を解消できると考えています。そのために、私は保育士としての専門性を子育て家庭へとフィードバックできるように伝えていきたいと思っております。</p> <p>また、現代は少子化となり、人口減少という問題もありますが、そのような社会の中でも国や県市を支えていける人づくりが出来るような、子育て支援の役割を民間レベルで遂行していきたいと考えております。</p>
	<p>大変心強いご意見をいただきました。</p> <p>地域子育て支援センターの職員の皆様には、日頃から子育て支援につきまして、先頭に立ち積極的に取り組んでいただいていることに厚く御礼申し上げます。市内には 19カ所の地域子育て支援センターがあり、そのうち 15カ所が民間運営となっており、民間事業者の皆様のお力を借りて、地域での子育て支援を行っているところであります。今のご意見にありますように、保育所や幼稚園が長年にわたって積み重ねてきた、子育て支援に関する専門性を子育て家庭へフィードバックしていただくことが、地域の子育て力の向上を図るうえで非常に重要だと思っておりますので、今後も地域</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>との連携や地域への開放を継続していただき、本市の子育て支援の推進にご尽力いただきますようお願いいたします。</p>
<p>参加者M</p>	<p>つづきまして、参加者Mさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p> <p>私自身のことになりますが、私が初めて子育て支援センターを訪れ、勉強させて頂いたのは学生時代のボランティアや実習でした。それから和泉愛児園に就職し、和泉こども館支援センターの担当をさせて頂き、私も子どもを生み、育て、子育て支援センターを利用するという経験もし、そして、今年4月から再び支援センターの担当となっています。学生として、職員として、母として、ママさん職員として携わることができ、私自身も子育て支援センターの大切さをとても実感しています。</p> <p>現在、和泉こども館では、子育て相談事業や子育て両立支援講習会、親子教室、サークル活動支援、出張支援などの活動を行っています。県内出身の利用者もいますが、県外から転勤で引越してこられた方の利用もとても多くなっています。和泉こども館を利用して下さるお母様方から寄せられる声で多いのは、「支援センターのイベントももちろん楽しみだが、子どもとのびのび遊べることが嬉しいです」とか、「プール遊びや園庭遊びなど季節に合わせた遊びができ、好きな時間に訪れて、子どもと一緒にのんびり遊べる空間や、そこでできた友達と過ごす時間は居心地が良く大切です」といった意見です。</p> <p>甲府市内にも、たくさんの子育て支援センターがあり、各支援センターはそれぞれの特色やカラーを大切にしています。昨年度より、甲府市内の子育て支援センターの担当者が毎月集まり、連絡協議会を行っています。</p> <p>今後の子育て支援の充実や地域での子育て支援を大切にしていくためにも、甲府市と連携を取りながら、各支援センターが協力し合い、様々な活動に挑戦していけたらと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>学生時代のボランティアに始まり、職員としてまた利用者として、さまざまなお経験をされ、その中で多くの方にアドバイスやご指導をされてきたことと思います。各子育て支援センターが特色ある活動を行い、地域での子育て支援に大きく貢献されていることは十分承知をしております</p> <p>本年4月から始まりました子ども・子育て支援新制度においても、地域における子育て支援は非常に重要であると位置づけておりますので、今後の本市の子育て支援の充実のためにも、子育て支援センターのスタッフの皆様のご協力をいただき、さきほどの話にもありましたが、連絡協議会での共通の</p>

	<p>課題をお聞かせいただき、課題の解決に向けて一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
子ども家庭支援室長	<p>つづきまして、参加者Nさんご意見をいただけてよろしいでしょうか。</p>
参加者N	<p>子育て支援センターの利用者の方は、核家族の方や転勤で引越してこられた方が多いため、子育ての悩みを聞いてもらえる場があるだけで子育てをする楽しさを感じることができ、心にも余裕を持って子どもたちにもかかわることができると思います。また、家の近くに気軽に立ち寄れる支援センターがあることが大切ですし、支援センターだけではなく、地域とも連携しながら、育児の相談をしやすい場所を提供することが大切であると思います。</p>
市長	<p>Nさんのご意見のとおり、本市では、住んでいる場所の近くに子育て支援センターをとこの考えのもと、子育て支援事業を行っております。また、支援センターだけではなく、地域の様々な組織の活動も他市に比べて活発に行っているものと自負しており、このことは、甲府市や市民の財産であると思います。</p> <p>先ほどの話にもあったように19カ所の支援センターが意見交換を行い、共通の課題について検討し、或いは行政へ要請を行うことは非常に大切なことですので、今後も活発に活動していただきたいと思っております。</p>
子ども家庭支援室長	<p>次に参加者Oさんご意見をいただけてよろしいでしょうか。</p>
参加者O	<p>私は、地域子育て支援センターのスタッフとして子育て中のご家族に関わらせていただく中、利用者・スタッフとそれぞれ立場は異なっても地域で子どもを育てあう仲間であり、「おたがいさま」の関係だと思っています。</p> <p>子育て支援センターは子どもの遊び場であり、大人の息抜きの場でもあります。また、出会いの場であり、交流を通じて学びの場ともなります。利用者もスタッフも個性豊かな一人一人が集まって、それぞれのあり方でそこにいる。みんなが受け入れられるあたたかく安心感のある場所でありたいと思っています。</p> <p>子育て支援は、価値観も違う、生活も違う多様な人々を、地域にある様々な資源（人・環境）を活用していかにあたたかく受け入れることができる</p>

かということだと思っています。ですので、一律同様のサービスではなく、あちらこちらに様々な個性豊かな支援があって良いと感じます。逆にそうでない行き場所がなくなる方が出てきてしまうと感じます。不安な状態にある人にはその人が安心していられる場を、意欲あふれた人には特技や専門性を活かせる活躍の場を、それぞれが自分にあった場所で自分らしくいられる「子育てはいろいろあるけど、明日もがんばろう」そんな風に思えることが大事だと思います。

支援センターの一日の中では、利用者を玄関に迎えに行く親子、初めて利用する人に気さくに声をかける方、相談し合う方、母親がお手洗いにいく時に見ていてくれる方、ご飯の時間にテーブルを拭く方、一緒に遊んだ仲間が帰る時にみんなで見送る姿等、“何だかみんな家族みたい”と思うことがあります。

様々なつながりが一年を通じて作られていきます。「そこに行けば誰かに会える、自分の居場所がある」そういうことが一番大事だと思っています。「私すごく人見知りなんです」と自分のことを話していたお母さんが、2年経った今では特技を活かしてサークルを実施しています。「家ではもう使わないから」と持ち寄っていた衣類やおもちゃ、雑貨のコーナーから始まった“ものもの市”は、家にあるものを持ち寄ったり、得意な手作り品の販売等、母親主導のイベントに育ちつつあります。スタッフと利用者でともに作り上げていく子育て支援を、微力ではありますが子育て支援センターを通じて発信して行けたらと思っています。

最後に、子育て支援は子どもとお母さんの支援に焦点があてられますが、お父さん・おじいちゃん・おばあちゃん、職場の人、近隣の人々といった、親子を含めてその家族を取り巻くすべての環境が「おたがいさま」の気持ちを持ち繋がれた時、さらに支援の充実につながると感じます。

市長

〇さんのご意見にありますように、地域における子育て親子の交流等を促進する子育て支援センターは、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することが大きな目的だと思います。

〇さんがおっしゃられた「おたがいさま」という言葉は地域での子育て支援を行ううえで、非常に重要なキーワードだと思います。これまで子育て支援を受けていた方々が、子育て支援を行う側になることで、ノウハウや経験が蓄積され、財産となり地域の子育て力が高まると思いますので、お子さんとお母さんだけではなく、その家族を取り巻くすべての方がお互いを尊重し、支え合い、優しくあたたかい気持ちを持ち続けることが大切です。私達もこのことを念頭に入れながら、子育て支援を推進していきたいと思っています。

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に参加者Pさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者P</p>	<p>私には地域支援センターを利用されるお子さんと同年代の子どもがいるため、お母さん方と子育ての悩みを共有し、情報交換を行っておりますが、最近の支援センターの利用者の中には、お子さんのいいなりになってしまっているお母さんや、お子さんを遊ばせて自分は携帯を見ていたり、お友達とのおしゃべりに夢中になってしまうお母さんなど、お子さんとの関わり方が少し気になるお母さんも増えてきているように感じています。</p> <p>そのようなお母さんも支援センターに来て頂き、他の親子の様子を見たり、私達保育士と話をしたり、掲示物等を見て頂いたりすることで、少しでも子育てを楽しみ、充実させるきっかけとなればと思い、日々、掲示物や室内の環境設定や積極的なコミュニケーションを図ることを心がけています。</p> <p>しかしながら、まだ支援センターの存在を知らない保護者の方も多いため、支援センターで協力してチラシを作成しました。チラシは甲府市で母子手帳配布時と3、4カ月健診の際に配布して頂けることとなっておりますが、全戸訪問や健診の際にも保健師さんや助産師さんに紹介して頂けたら良いかなと思います。</p> <p>また、今日の意見交換会で愛育会の方や主任児童委員の方が来ていますので、これらの方々との関係を構築することで、より地域に密着した子育て支援ができるのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>Pさんご意見は、日々現場で活動されている方の声であり、非常に参考になりました。子どもさんとのかかわりが少し気になるお母さんについては、その方に何でも話せる仲間がいれば、子どもさんとのかかわりも改善されると思いますが、仲間がないお母さんについては、子育て支援センターの皆さんが培った子育て力で、お母さん方をよい方向に導けるようにしていただければありがたいなと思います。</p> <p>各地域子育て支援センターで発行しているパンフレットにつきましては本庁舎3階や児童保育課窓口及び保健センター入口に設置してありますラックに掲示させていただいたり、健診や家庭訪問時に配布させていただいております。今回作成していただいたパンフレットにつきましても、これまでと同様に、健診や家庭訪問時などあらゆる機会に配布させていただきたいと思います。</p>
<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>次に参加者Qさんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p>

<p>参加者Q</p>	<p>本年4月に「子ども・子育て支援新制度」が施行され、認定こども園等の保育施設の増加、保育認定基準が引き下げられる等、子育て家庭にとっては、好ましい環境が整いつつあると言えます。しかしながら新制度が分かりづらいことで、恩恵を受けるべき子育て家庭に新制度のメリットがほとんど理解されていないのが現状です。</p> <p>そこで2つ提案があります。一つは、市役所の利用者支援窓口を「保育コンシェルジュ」に相応しいビジュアルと内容にすること。もう一つは、市内の子育て支援センターを「機能強化型」にするか、又は、それに近い利用者支援機能を持たせることです。</p> <p>いつもは、一時保育の利用方法等の質問や育児相談が多いのですが、昨夏以降はそれに加えて新制度施行を控えて保育所入所、幼稚園入園について制度上の質問や具体的な申請手続方法に至るまで様々な質問や相談が非常に多く、多忙を極めました。</p> <p>今、必要なのはそれぞれのご家庭に合った支援を様々な施設、制度のなかからコーディネートすることで痒いところに手が届く支援にすることです。生活の場に近い支援センターで、日頃から親子共に親しんでいるセンター職員だからこそ可能になることだと考えます。</p>
<p>市長</p>	<p>本年4月に「子ども・子育て支援新制度」が施行されましたが、今までにない大きな制度改正であったため、各幼稚園・保育所の皆様には、様々な質問への対応等につきまして、ご協力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。</p> <p>本市におきましては、先に公表しました「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト」において「子育て支援部（仮称）」の創設を掲げ、実現に向けて動き出しております。例えば札幌市でも「こども未来局」を創設し、子育て支援制度の充実を図っておりますが、本市でもQさんのご提案のように「保育コンシェルジュ」を設置し、ワンストップサービスの導入や新制度の説明や周知を行い、痒いところに手が届くような組織を創っていきたいと思います。</p> <p>また、地域子育て支援センターの機能拡充等につきましては、今日いただいたご意見も参考に、新しい部を創る課程のなかで進めていきたいと思っております。</p>
<p>子ども家庭支援室長</p>	<p>次に参加者Rさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者R</p>	<p>私は、地域に点在する甲府市子育て支援センターの利点を生かし、きめ細やかな子育て支援の充実を考えてみました。</p>

富山県では『マイ保育園』という事業がありますが、地域に点在する保育園等に併設している甲府市の子育て支援センターだからこそ「マイ子育て支援センター」として活用できるのではないかと考えます。

妊娠したらマイ子育て支援センターを見つけ、育児体験サービスを受けます。例えば赤ちゃんの抱き方、あやし方、寝かしつけ方、おむつ交換の仕方などを体験的に学ぶ場を提供したり、先輩ママとの懇話会をしたりと親となる準備をしていきます。産後直後の育児は想像以上に過酷なものです。マイ子育て支援センターがあれば、出産前から顔見知りとなった保育士に気軽に相談ができます。電話やメール、訪問などそれぞれにあった方法で育児に対する不安を解消し、心身の疲労を癒し、それぞれの赤ちゃんに合った接し方を知ることで自分の子育てに自信が持てるようなスタートができるとその後の楽しい子育てに繋がっていくと思います。

保育園には子育てのノウハウがあり、たくさんの方々とかかわってきた保育士だからこそできる子育て支援をもとに、産前産後から切れ目のない子育て支援をしていくことで命の誕生を共に喜び、子どもを大切に守り育てることに寄り添う保育士がそばにいる。そのことが、かけがえのない安心につながると思います。

池田第二保育園に併設する地域子育て支援センター「くるみの森」は小さなセンターで利用者も多くありませんが、思いやりの精神を基盤として一人一人への丁寧な子育て支援に取り組んでおります。『くるみの森に出逢えて、先生に出逢えたおかげで子育てが楽しくなりました』とか『あのままだったら確実に育児ノイローゼになっていました』という言葉の重みを感じています。

また、保育園や幼稚園に入園した後も小学校に入学してからも、子育ての悩みはつきませんが、子ども達が成長した姿を見せに来てくれたり、その際に子育ての悩みについて、相談があったりとながりの深さを感じています。不安や心配のない子育てなどないと思いますが、こうして話を聞いてくれ一緒に考えてくれる人（保育士、子育て仲間等）がいるだけで子育ての大変さが軽減できることを確信しております。私たち保育士の専門性が子ども最優先のまちづくりに貢献できたら幸せに思います。

市長

市内には19カ所の地域子育て支援センターがあり、そのうち15箇所が民間運営となっていることから、各センターで特色ある事業や行事を行っていただいております。保護者の方々が様々な支援センターの中から気に入ったセンターを選んでいただけるという特長を持っています。

また、行政としましても、切れ目のない子育て支援の実現のため、生後4カ月を迎えるまでの乳児がいる家庭を保健師、助産師等の専門職が訪問する乳児家庭全戸訪問事業、3カ月児整形外科健康診査、乳児一般健康診

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>査、3歳児健康診査などを実施し、きめ細かく母子の健康や育児への支援を行っています。</p> <p>今後も地域子育て支援センターの職員の皆様方とは、連携を図りながら子育て支援事業を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>先ほどの富山県の事例ですが、富山県は様々な分野において先進県であることは、承知していますが、私達も子育て支援について、知恵を絞って意見を出し合い、「甲府スタイル」をつくっていききたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>次に参加者Sさんご意見をいただいでよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者S</p>	<p>私は、ここ中央保育所の子育て支援センターに勤務しています。センターには私の他に2人の職員がおり、3人合わせると、2歳から中学生の子供がおり、その中には双子がおり、母親としての側面を持ちながら、勤務しております。</p> <p>センターでは、子育ての相談を受ける事が多いですが、その中でも、子どもの発達や離乳食（栄養）等の相談を受けるが、実際には話を聞くことしか出来ず、必要のある方へ情報提供やその先へ繋げることが出来ていない。センター職員が、乳児検診等で母子と繋がりのある保健師や栄養士に相談や情報交換ができるように連携を図りたいと思っております。また、支援の拠点となるセンター職員が様々な医療機関について知る事で、より充実した情報提供が出来るようになると思うので、医療機関や施設の視察や研修等に参加し、知識向上に努めたいです。</p>
<p>市長</p>	<p>中央保育所は、市立の保育所であり、一時保育を始め、様々な特別保育事業に取り組んでおり、地域子育て支援センター事業につきましても、新園舎の建て替えを機に、取り組みを開始しました。</p> <p>このセンターにおいて、子育て中の親子が気軽に訪問して、相談や情報提供を受ける事ができる場所として、活動しているところであり、その中には専門性の高い相談等もあると思っております。</p> <p>これは、他の地域子育て支援センターでも共通の課題であると思っておりますが、是非研修会等を通じて、資質を向上させ、十分な対応が図れるよう努めていただきたいと思っております。</p> <p>子ども・子育て支援にかかる施設・事業は、保育所、認定こども園、幼稚園、保健センター、医療機関等多岐にわたっており、各施設・事業との連携が非常に重要になります。地域子育て支援センターの皆様方には子育て</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>て支援活動をなお一層推進していただくためにも、行政といたしましても関係機関との連携強化に努めてまいりたいと思います。</p>
<p>参加者 T</p>	<p>最後に参加者 T さんご意見をいただいてよろしいでしょうか。</p> <p>幼児教育センターの現状と活動目標について、お話をさせていただきたいと思います。</p> <p>現在、幼児教育センターの利用者数を増やすことを目標として、より気持ちよく利用していただくために職員がアイデアを出し合ったり、利用者の方の要望に迅速に応えたりと様々な働きかけを行っています。</p> <p>近年、幼児教育センター利用者の目的として、育児休業中に子どもと触れ合う場・子育ての悩みを共有する友人を作る場として利用している保護者が多く、実際の利用者を見ても 0 歳～1 歳児の子どもを持つ母親の利用が目立ちます。</p> <p>そのため、一番多く利用していただいている月齢の子どもを持つ保護者の方の多様化するニーズ（月齢別講座の月齢クラスの細分化・低年齢児向けの遊び場や部屋の設置・駐車場の拡大等）に応えていく必要があるが、現在の施設状況や職員数だけでは限界があります。</p> <p>現在も定期的に講座を開講し、職員による育児相談を行っているが、より専門的な知識や情報を持つ保健師や助産師、栄養士による育児講座や相談会を今以上に開催することにより、育児支援を行っていきたいと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>少子化問題は、国と同様に本市においても喫緊の課題でありますから、本市でも様々な少子化対策や子育て支援対策に取り組んでおります。</p> <p>特に今回のテーマであります「子育て支援の充実」につきましても、この放談会なども参考にして、「こども最優先のまちを創る」など 6 つの「創る力」による笑顔あふれるまちづくりに向けて、全力で取り組んでまいります。</p> <p>最近では、スーパーなどの民間施設でも乳幼児コーナーを設置し、遊び場所の充実ぶりが目に付きます。</p> <p>幼児教育センターでは「月齢別連続講座」やママヨガ、ベビーマッサージなど各種の公開講座、さらには子育て応援フェスタや世代間交流事業などのイベントも開催しておりますが、魅力的で市民の皆様により多く利用していただけるよう、職員一同で知恵を出し合い、幼児教育センターのより一層の充実を図っていきますので、引き続きご尽力いただきますよう、よろしく申し上げます。</p>

<p>子ども家庭 支援室長</p>	<p>多くの貴重なご意見をありがとうございました。予定の時間となりましたのでこれで意見交換会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>まとめ</p>	
<p>市長</p>	<p>長時間にわたりおつかれさまでした。時間の都合上、ひとり1つの意見という形をとらせていただきましたが、地域で子育て支援を行っていただいている組織の皆様、地域子育て支援センターで日々地域の子育て力の充実に取り組んでいただいている皆様からのご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>私は県議会議員の時に世田谷区の「産後ケアセンター」や埼玉県和光市の「産前産後ケアセンター」を視察しました。世田谷区は約88万人の人口がいるのにもかかわらず、1つの産後ケアセンターで受け入れが可能なため、約84万人の人口がいる山梨県でも「産前産後ケアセンター」をつくろうとういことになり、来年1月に笛吹市石和町にあった「かえで荘跡地」に産前産後ケアセンターが開設されることになりました。ここでは専門のケアスタッフのもと、しっかり子どもさんを生み育てていただき、その後は地域に戻り、今日出席されている皆様方のお力を借りて、地域で子どもさんを育て、同時に母体の回復を図っていくこととなります。生まれてきた子どもさんが母子ともに健康に育てていただくためにも、行政として子育て支援に取り組んでいく訳ですが、行政だけでは限界がありますので、今後も皆様方の大きなお力添えをいただきたいと思います。</p> <p>また、子ども子育て会議や今日の放談会、担当課などを通していただいた皆様からの声をしっかりと受け止め、安心して子育てを行っていただけるよう子育て支援の充実に取り組んでまいりますので、今後も是非ご意見や要望をお寄せいただきたいと思います。</p> <p>最後に、皆様から貴重なご意見等をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。私の挨拶にかえさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>